

かがやき

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3470501481		
法人名	社団法人社団永楽会		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地 (電話番号)	広島県呉市中央2丁目6番20号 (電話) 0823-25-2110		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29		
訪問調査日	平成19年5月14日	評価確定日	平成19年6月5日

【情報提供票より】(19年4月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 / 単独	<input type="checkbox"/> 新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	8 階建ての	階 ~ 8 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200	円	

(4) 利用者の概要(4月26日現在)

利用者人数	8 名	男性	5 名	女性	3 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 永楽会 前田病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「かがやき」の特筆すべき点は、まず全職員がホームの理念を互いに深く意識しながら共有し、実践が理念に基づいたものとなっている。入居者、家族、職員間の信頼関係も、連携も構築されており、またボランティア関係者の来所訪問等も多く見られ地域との関りも定着している。医療面を含めて、併施設設との交流や協力体制もきめ細かく行われており、家族等にも大きな安心感を持たれている。このホームは、母体である医療法人の建物の八階にあるが、散歩や買い物及び併施設設への訪問等を日課として取り入れており、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。営繕関係も良好であり、屋上の菜園の活用には入居者と職員で行い、大きな窓からは海、船、山等が一望でき快適な住まいとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、地域との交流の促進が課題として話し合われていたが、職員の積極的な取り組みによりボランティアや家族等及び地域の理解、協力を得て交流の輪が広がり、関わり方が定着化されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が、評価の意義を十分理解に努めながら活用し、一歩ずつ改善できるように日頃から取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は既に7回実施されており、地域の代表者、家族等の出席も多く、ホームからは「かがやき」の理念、グループホームの役割、希望している地域との関わりなどを詳しく説明し、また出席者からもホームの実情に対してどのようにしたら関わられるかなどの積極的な質問や討議がおこなわれている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問は、多くの職員との信頼関係であり、気軽に何でも話し合える雰囲気作りとなっている。ホームは、家族からの意見や苦情等はミーティングなどでよく話し合い、反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの近隣の幼稚園児や小学生が来訪され、また地域のボランティアの方々の協力も数多くあり、入居者と職員はリサイクル活動に参加するなどして接点を持つ努力を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を職員自ら作り、地域との関連性を十分念頭においている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常日頃から理念についてはよく話し合いの機会を設けて意見の統一を図りながら、また職員の立ち返りの指針として取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外出での散歩の途中や買い物時における顔馴染みを増やしたり、地域の行事等の情報を収集して参加を行いながら取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で前向きに行い、取り組むべきことを理解し生かしていく姿勢が伺えた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、参加者も多く地域や外部の人々の意見を活かしながら絶えず改善の努力の取り組みの機会としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の地域包括支援センターとの関わりはあるが、今後は市担当者との関わりをもっと積極的に行われることが期待される。		運営やサービスの課題の中には、市担当者と協議しながら一緒に解決を図っていく必要がある場合が少なくないと思われるので、例えばホーム便りを届ける等して関係作りに取り組まれることが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便りを発行しホームの現状や在り方などを伝え、また家族の来所訪問時には利用者の状況や家族のことについて詳しく話し合いを行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情への対応は速やかに発生原因を探り、また課題を検討し、質の向上に繋げている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成18年度においては、異動や退職者はなかったが、併設施設を含めての人事異動については、質の向上を含めた目的が明快に示されており、異動が発令される時は入居者への配慮を優先したものとされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的には意見交換を大切にし、OJT教育を中心に取り組みながら、また施設外研修についても参加を積極的に支援を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの合同行事を行う等して、お互いの交流や意見交換等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、家族等と十分な話し合いを行いながら入居者が職員やサービスの場に徐々に馴染んで利用に移れるように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、入居者の方を人生の先輩として常日頃から学び、共に生活を行いながら過ごすことを大切にして実践に向けて取り組んでいる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>支援する側、される側にとらわれない関わりを基本として、一緒に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員の視点からみた業務をこなすための介護計画ではなく、利用者主体の暮らしを反映した介護計画が作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>常に介護計画と照らし合わせて、現時点の入居者や家族の状況や要望等と乖離がないか、ずれていないか見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	入居者や家族の状況に応じて、通院や送迎等の支援 を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	家族等と受診時の情報の伝達方法について話し合 い、合意を得て支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	入居者や家族の意向、本人にとってどうあったら良い のか、事業所が対応しうる最大の支援方法について全 員で納得がいくまで話し合い、方針の共有化を図って いる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	常日頃から、職員は言動の慣れの防止に努めており、 職員同士で注意しあいながら意識の向上に努めてい る。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しな がら、入居者が主人公となって暮らせるよう支援してい る。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けは、入居者の意思や気持を大切にしながら手伝ってもらい、また職員が同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	羞恥心・負担感等への配慮をおこないながら、本人の意向にそった入浴の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	マンネリ化したり、職員主導の楽しみや役割にならないように、利用者の経験や知恵を発揮する場面作りを行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課として、併設の病院へのリハビリ通院や散歩・買い物及び喫茶店には、全員もしくは個々のニーズで出かけており外出支援体制を構築している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室以外の一部のドアは、建物の建築上の安全面から時には施錠することもあるが、常態化させておらず、また職員も鍵をかけることへの弊害も十分理解をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、併設の施設からの協力体制も確保されており、また避難訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有し、また併設施設の管理栄養士から専門的な観点からの指導やチェックの支援を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよさや心身の活力を引き出すために、生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を整えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で慣れた馴染みの物を持ってきてもらい、安心して過ごせるような配慮を行っている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームかがやき

所在地 広島県呉市中央2丁目6番20号

記入年月日 平成19年4月27日

記入者 職 管理者 氏名 富山 みさこ

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	開設当初に職員で導き出した理念を念頭に日々の介護を展開している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関とスタッフデスクに理念を掲げ、常に意識付けをしている。 迷いが生じた時は、常に管理者、職員間で話しをしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族他面会者、訪問者に分かっていたるように玄関に明示している。 運営推進会議を利用し、理念の浸透に努力している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域的に隣近所の人達と親しくするのは難しいが、散歩や買い物、資源ごみのごみ出し等で、こちらから挨拶をする努力をしている。また縁のあった人には「また寄ってください。」「また遊びに来てください。」の声掛けに努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	孤立してはいないが地域的に隣近所と特別親しくしたり交流する事は難しい。運営推進会議を通じ、ホームの行事(法話会)に参加してもらおう取り組みを行った。 日常的には毎日のリハビリ通院を通じ、外部の顔なじみができたり、買い物の途中で馴染みのタバコ屋や喫茶店に寄る事をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を通じ、地域の独居老人に遊びに来てもらったり、訪問したりといった取り組みができないか、民生委員に申し出ている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員が理解し、一歩ずつ改善できるよう取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	一年目は運営推進会議の運営方法が分からないまま取り組んだのが実情。主にグループホームかがやきを知ってもらう、理解してもらう事に努めた。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	所轄の包括支援センター職員に運営推進会議に参加してもらっているが、それ以外の行き来はない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修の機会にはまだ恵まれていない。 過去・現在の利用者には制度を活用しなければならない利用者はいない。		研修の機会を見逃さないようにしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者と職員が外部研修の機会をもち、伝達講習により職員全員に伝え、常に考えてもらえるよう努めている。虐待に関する自己検討チェックリストも活用し、職員同士声掛けをして見過ごさない努力をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必要な時間をかけ、十分な説明と同意を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の不満や意見は真摯に受け止め、可能な限り改善の努力をしている。が実際大きな不満や意見は聞かれない。 外部者へ表せる機会として介護相談員の訪問を受け入れている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	日常の様子やホームの変化（職員の異動等）は毎月発行している新聞で報告している他、面会時にお伝えしている。また、個別の事柄（金銭出納や健康状態）は個々に報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に話を聞く他、玄関にご意見箱を設置している。またケアプラン見直し前には電話や手紙も利用し、家族の声を聞くように努めている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者はグループホーム内での職務が常態であり、日々介護職員の意見・提案を取り入れることができる。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者が利用者の状態やホームの行事等を熟知しており、常に勤務の調整が出来る。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人全体で認知症に対する馴染みの人間関係の大切さを理解している。 (H18年度中の異動・離職者なし。新採用1名)		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日々がトレーニングであり、意見交換を大切にしている。 施設外研修も適宜取り入れている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	H18年4月、他グループホームとの合同お花見を試みた。他グループホームの職員の動きやコミュニケーション、レクリエーション等学びが多かった。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者は普段からコミュニケーションを図り、職員の悩みを聞いたり相談に乗る努力をしている。また業務上の不都合(物品の補充や職場環境)の改善に一步步取り組みを見せている。法人運営の歓送迎会、納涼会、忘年会によるストレス発散の機会あり。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	管理者は職員に負担のない勤務日程を組む努力をし、日々のコミュニケーションで実績や努力を認め共に喜び合っている。運営者は法人運営の会(忘年会等)で職員に声をかけてくれてグループホームの実績と努力を認めてくれている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	よく話を聞き、安心して利用していただけるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	よく話を聞き、安心して利用していただけるよう努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホーム入居は一つの手段であって、迷っている利用者・家族様には必要な情報を伝え、十分に考える時間を持ってもらえるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービス利用＝入居であり、“慣らし”の利用は困難。しかし、始めから何もかも準備して利用者の帰る場所を奪わないような対応をする等の個別対応を家族と相談しながらすすめている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームの特性として、入居者から学ぶ、入居者と共に行う、一緒に過ごすことを大切に生活し、職員皆が実践している。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や時には電話・手紙で家族とコミュニケーションをとり、家族の悩みも喜びも受け止める努力をしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居者が落ち着く事で、家族も落ち着いて入居者と向き合う事が出来る。家族関係の情報収集と共に、グループホームでの情報（良い場面）を多く伝えるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の希望、家族の希望を聞き、可能な限り外出や外泊、面会を支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い、気まずい、一人が好き、一人は寂しい、体調の良し悪し等一人一人を良く知る他、その時の状態を十分考慮し、利用者同士が協力し合う支えあう場面を大切に、環境設定する。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用の終了の理由は主に入院である。利用者とお見舞いに行ったり、家族と引き続きコミュニケーションに努め今後の生活や介護の相談に乗る努力をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族から話をよく聞き取り組んでいる。判断困難な場合は、理念を思い返し「もし自分だったら」「もし自分の身内だったら」と考えた上、「この人はどうしたいか」と利用者の立場で検討する。また自分ひとりの考えでなく、職員同士で相談する事も忘れない。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、担当ケアマネージャー等からの情報収集に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の観察と記録、申し送りで把握し、ケアカンファレンスでの総合的なアセスメントに役立てている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々のコミュニケーションで本人の気持ちや希望を把握すると共に家族の思いを汲み取り、3ヶ月毎にケアカンファレンスを行いケアプランの見直しをしている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々のミニカンファレンスで対応したり、状況が大きく変わった時はカンファレンスを行いケアプランを変更している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	体温や血圧の変動が一目で分かる検温表と日々の状態（感情・行動等）が自由に記録できる書式を使用し、個別の記録により情報の共有が出来る。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームは生活そのものなので、本人の状況や希望、家族の都合に合わせて柔軟に対応できている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員を通じボランティアの協力を得て、多彩な訪問や日々の外出が実現できている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	グループホームを利用しながら他の介護保険サービスは利用できない。外泊中は利用できるが在宅生活困難のために入居して居る利用者であり、長期間の外泊は前例がない。職員の努力とボランティアの利用等で生活が深まるような試みは行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	前例がない		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人と家族との納得の上で協力病院をかかりつけ医とし、信頼関係を築きながら適切な医療を受けられている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院の医師は認知症専門医ではないが、認知症に理解と知識があり、総合的に健康管理に相談に乗り対応してくれる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師であり日々共に居り、些細な事にも即座に対応できる。また、協力病院が同じ建物内にあり、夜間、休日も安心できる。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	協力病院に入院した場合は主治医、看護師、理学療法士等と日々情報交換し、早期退院に向けた取り組みを行っている。他病院に入院した場合は家族を通じ情報交換し、必要時は担当スタッフから直接に情報収集できる。また総合病院の地域連携室からの情報収集もできる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>ケースバイケースである。契約時から終末期のあり方を相談する例もあれば、あまりにも元気で問いかけても「考えられない」と答えられる例もある。しかし事ある毎に（本人でなくても他入居者の退去を契機に等）全利用者・家族に問いかけるようにしている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>新しい事例に出会う毎に、グループホームでどこまで受け入れられるのか、医療（かかりつけ病院）とどのように協働できるのかを考え、出来る限りその人らしく暮らせる支援を考えている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>十分な話し合いの上、介護要約も活用し、フォローしている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員各自がプライバシー確保を自覚し、職員同士で注意しあいながら、徹底できている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>「どうしたいか」を必ず問いかけ、判断が難しい利用者には選択可能な方法（どちらが良いか等）で問いかけ、自分で考える事、決める事、納得する事を大切にしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人一人の気分と体調と、共同生活によるの良い集団行動や日課を考慮し、個別対応に心掛けている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	外出時の洋服やアクセサリ選び、お化粧の支援をしたり、理美容は馴染みの店を利用している。馴染みの店のない利用者には施設で利用出来る他、白髪染めは職員対応で行っている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人の好みや体調に合わせ支援している。魚が嫌いな人に別メニューで対応したり、嚥下不良や歯が弱い人に刻み食やミキサー食で対応、食欲のない人に間食や家族の差し入れの導入。そして季節の食材を導入し、皆で準備し食べ、片付けている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	夕食時にビールが飲みたい人、寝酒が飲みたい人、コーヒーが好き、紅茶が好き、便秘対策のヨーグルト飲料、おやつ(自分が食べたい、他入居者にあげたい)等日常的に対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し時間誘導したり、出かける前等に誘導する事でオムツ使用を最小限にしている。またケアプランに則り取り組んだ結果、紙パンツから布パンツに移行し安定した入居者も居る。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日対応している。風呂好きの人、苦手な人、入浴禁止で清拭の必要な人等のバランスを考慮し、生活の流れもくんで支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	早く床に入りたい人、寂しくて早く居室に行きたくない人、寝る前に何か飲みたい人(お酒、お茶等)一人でゆっくりテレビが見たい人、不安が強く睡眠薬や精神安定剤が必要ない人等個別対応できている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の性格や特技、習慣を情報収集し対応。 その人らしい役割を見つけたりなるべく外出を支援し閉じこもりを防ぐ。またお楽しみの行事も取り入れている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人一人の能力と希望に応じ、常時自分でお金を持っている人、外出時(必要時)のみお金を持てる人、お金は使えないが品物を選ぶことが出来る人等個別対応している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	リハビリ通院を利用して毎日全員が日課としてグループホーム外に出かけている。天気や用事(必要な買い物)により全員や個別で散歩や喫茶店、買い物に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	娘のプレゼント選びといった個別の買い物に対応したり、選挙にでかける。またお墓参り等家族の協力を得ての外出支援をしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じ各居室に電話を設置でき、いつでも連絡のできる安心感を持ってもらえる。また電話のかけ方が分からない人には代わりにかけてあげたり、会いに来てくれることを忘れる人には家族から手紙を送ってもらう支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会者には気兼ねなく長居が出来たり気持ちよく話が出来よう職員全員が心得ており、お茶を出したり一緒にコミュニケーションをとっている。地の利もあり面会者は多く、入居により馴染みの人間関係が損なわれることはない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	資料を事務室に置いている他、勉強会を通して職員全員が自覚し身体拘束をしないケアを努力している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には鍵をつけていない。運営者及び職員は全員鍵をかけることの弊害を理解しているが、土地柄や建築上の安全面から日中、ドアはセキュリィーロックを採用している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	何もかも取り上げたり隠すのではなく、事例に応じ様子を見たり、目に触れないようにし危険を防いでいる。 (ヘアスプレーを顔にかける、懐炉を破って食べる、ハンドクリームを歯磨きチューブと間違える等)		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事例に応じ一つ一つ勉強しているが、つい一過性である。		マニュアル作成
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	病院との連携を職員が熟知しており良い協力関係にある。		マニュアル作成

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>火災に関してはマニュアルをスタッフデスクに常時示しており職員全員が熟知している。その他の災害を想定した話し合いはなされていない。建物内に医療、福祉施設が混在しており、グループホーム独自ではなく総合的な見地が必要。またこのような特徴から近隣の協力を得る例は考えにくい。</p>		法人全体でとらえたマニュアル作成
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>入居者間トラブル、転倒、窒息、行方不明、病状悪化等、一人一人に起こりうるリスクを管理者から家族に説明し、納得を得た上で、生活の幅が狭まらないような支援を行っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>記録と申し送りを活用し実践している。 また気になることは些細なことでも管理者（看護師）にメモと口頭で伝えている。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬剤師が個別に発行する「おくすり説明書」により職員全員が理解できる。また特別な薬や副作用、注意点は管理者（看護師）から職員に伝え、気になることは職員から管理者に伝える習慣づけができています。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>食事、運動、睡眠の生活の基本を整え、便秘予防の食材を取り入れたり、飲水をすすめたり、個別に便秘薬の使用・調整やセンナ茶・ヨーグルト飲料の導入を行っている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後に一人一人の能力に応じ、声掛けや誘導、見守り、介助を行っている。 定期的に義歯洗浄剤を使用している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事量を記録し、職員全員が一人一人の状態を客観的に知った上で、利用者の体調、好み、普段の状態に応じて支援している。また飲水困難で脱水を起こす危険の高い利用者には飲水量を記録していた。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	法人で取り組んだマニュアルを利用している。また県や市から送付される資料を利用している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	普段の食材は併設病院の厨房の契約業者からの仕入れであり、安心できる。グループホームで独自に買い物する場合も多く、賞味期限や保存に留意し安全に努めている。また台所周りの清掃やまな板、布巾の消毒等を業務課して徹底している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物玄関は法人全体の玄関と同一であり、常に清掃され手すり等の配慮がある。 グループホームは建物の8階部分であり、気軽に出入りできる環境とは言い難いが、玄関には季節の花を飾ったり、ボランティアの協力により季節の人形や作品を飾り、親しみやすい雰囲気を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔と明るさ、季節感に心がけている。 廊下の壁面には利用者の作品や日頃の様子を写真で飾り、利用者、職員共に大声を出したり争いの起こらないような配慮を努めている。笑顔(楽しさ)と安心を心掛けています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂にはテーブルが3台あり、普段の食事は人間関係を考慮して席決めをしており、安心して自分の居場所を見つけられる。その他はテレビを見たり話をする都合に合わせ、その都度対応している。またリビングに少し奥まった部分や寝転がれる場所も用意しており、思い思いに過ごせる環境を作っている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はなるべく自宅で使っていた家具や品物を持ち込み、環境の変化を少なくし、安心して過ごせるよう説明し支援している。本人と家族の思いにずれが生じることもあるが、家族愛を感じられ、双方の思いを汲み取り、柔軟に対応している。孫の面会が頻回にあり、孫に合わせた居室であったり、量が好きな人も居たりと様々である。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日清掃時に換気し、季節に合わせてその後の換気や空調に留意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全館バリアフリーで要所に手すり等が整備されている。年齢や身体機能に応じ滑り止めマット等も活用している。しかしグループホームは家であり、浴槽、台所、流し、洗濯干し場等、当たり前家のつくりであり、生活リハビリを重視している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	「できること」「できないこと」のアセスメントを常に留意し、個別対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の8階という環境で限界はあるが、ベランダと畑があり散歩を自由に楽しめる。また役割として畑の水遣りや草抜き、作物を植えたり収穫したり、それぞれの力や個性を生かして活動できている。		